

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年12月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0870301108		
法人名	株式会社 長寿館		
事業所名	グループホーム 永国長寿館	ユニット名	西棟
所在地	〒300-0817 茨城県土浦市永国1048-1		
自己評価作成日	平成24年6月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年11月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0870301108-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年8月29日	評価確定日	平成24年11月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所が国道に面し飲食店や商店が多く、利用者の外出等に利用出来る。 協力医療機関からの往診が有り、看護師との医療連携体制を24時間取っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

管理者や職員は利用者一人ひとりの個別性を尊重し、その人らしい暮らしの実現に向けて日々の支援にあたっている。 事業所は様々な商店が立ち並ぶ国道沿いに立地しており、利便性に富んでいるとともに、階下に同一法人が運営している通所介護事業所があるため、機械浴や機能訓練の設備が利用できる。 医療機関と24時間の連携が図られており、利用者や家族等、職員の安心につながっている。
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を館内に掲示。 理念を職員が唱和して覚える。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を作成し、居間と事務所に掲示している。 管理者と職員は朝礼やミーティング時に理念を唱和し、理念にそった支援ができていないか確認し合いながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域から慰問のボランティアの来所、推進会議で地区の方と話し合い等を行う。	自治会に加入し、地域の夏祭りや芋煮会などに利用者と職員で参加したり、草刈りや缶拾いなどの清掃活動に参加している。 大正琴や民謡、傾聴などのボランティアや小・中学生の体験学習の受け入れなどを通して地域と交流している。	管理者は「今後、専門性を活かして認知症についての相談を受けたり、講習会を開催するなど地域に貢献したい」との意向なので、その実現を期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	傾聴ボランティアが月1回来所。 社会福祉協議会から介護相談員が月1回来所 運営推進会議を隔月で行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を実施。 サービス等について話し合い、議事録を職員が閲覧している。	運営推進会議は市職員の参加を得て2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況などの報告を行い、その後出席者同士で意見交換をしている。 会議で出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 議事録を作成して委員に配布するとともに全職員に回覧し、会議の内容を共有している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入退去の状況を市役所に毎月提出している。 グループホームの連絡会が隔月で開催され、出席する市職員と話し合いを行っている。	管理者は入退去の連絡など電話で済むことも市役所を訪問して伝えたり、市職員の2ヶ月に1回の定期的な来訪などを通して情報交換をしたり助言を得たりしながら協力関係を築いている。 定期的に開催する地域密着型サービス連絡会は、市内の事業所と市職員で情報交換を図る場となっており、出席して関係づくりに努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	資料を使った研修、施設内に身体拘束に関するポスターを掲示する等を行っている。 事業所のマニュアルに身体拘束を行わない方針、やむを得ず行う場合の手順と行った場合の弊害が記載されている。	契約書に身体拘束や行動制限を行わないことを明示し、定期的に研修や勉強会を開くことで全職員が身体拘束の内容とその弊害を理解しているほか、「身体拘束のない介護のための指針」など、人権啓発のポスターを掲示して意識付けをしている。 身体拘束はしていないが、緊急やむを得ずする場合に備えて書類一式を整備している。 事業所は3階にあり、エレベーターは自由に乗降できるが、階段口扉は安全を考慮し、家族等の同意を得て施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を使った研修を行っている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を使った研修を行っている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者と利用者、家族が相対して読み上げ内容を確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	エレベーター前にご意見箱の設置、運営推進会議に家族を交代で出席してもらう等を行っている。 事業所の御便りにアンケートを同封して家族の意見を求めている。	利用者からは日常の問いかけや会話の中から、家族等からは来訪時や電話連絡時に意見や要望を聴くよう努めている。 介護相談員を受け入れたり意見箱を設置しているほか、家族等へ無記名のアンケートを実施して意見等を汲みあげている。 出た意見等は全職員で話し合っ改善に取り組むなど、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを週1回開催し、介護に関する意見等を話し合っている。	管理者は職員が自由に意見や提案を出せるよう週1回ユニット毎にカンファレンスの時間を設けているほか、同一法人が運営する同じ建物にある事業所との全体会議を週1回開催している。 出た意見等は利用者への支援に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所の目標、方針等を作成して職員の意欲向上を図っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の年間予定表を作成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	土浦市内のグループホーム連絡会に随時、参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声掛け、目配りを欠かさず行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント、相談受付表等を記入して 要望を確かめる様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス担当者会議の実施、相談受付表の作成を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に食事をする、片付けを行う等、共同で生活している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、毎月の御便り等で生活の様子を報告し状態を把握してもらう事に努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの店への同行を職員が行う、知人との面会を自由に行う等で支援している	利用者が行きつけのコンビニエンスストアやドラッグストアでの買い物に行けるよう職員が同行したり、家族等の協力を得て選挙や親戚の集まり、墓参りなどに行けるよう支援しているほか、手紙の作成や電話の取り次ぎなどを支援し、利用者がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団でのレク等を行って入居者同士のコミュニケーションを図っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した後も、再度の入居の相談等が有れば応じている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシート、相談受付表、サマリー等を読んだり、本人と話したりすることで意向の把握に努めている。	契約時に介護支援専門員が利用者や家族等から聴き取りをしてアセスメントシートや相談受付表を作成しているほか、入居後は利用者との会話を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者には表情や顔色、しぐさなどを観察して思いを汲み取り、利用者の個別性を尊重するよう努めている。 ラジオ体操やシルバーリハビリ体操、カラオケ、将棋、編み物、塗り絵など、利用者がやりたいことをやりたい時に自由にできるよう支援しているほか、植木の水やりや草取り、モップかけ、洗濯物たたみなど、利用者が自主的に役割を担って過ごせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシート、相談受付表、サマリー等を読んだり、本人と話したりすることで生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録への記入、カンファレンス等で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成の前に本人、家族、関係者で担当者会議を開催している。	介護計画は利用者や家族等の意向を聞いて作成し、3ヶ月毎に見直しているほか、利用者の心身の状態に変化が生じた場合はその都度見直している。 長期目標は6ヶ月、短期目標は3ヶ月と期間を定めて設定するとともに、3ヶ月毎にモニタリングを行って現状に即した介護計画を作成し、その都度家族等の確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の様子、バイタル、排泄、入浴等を個人記録に記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイの利用者との面会家族との外出の協力、ボランティアの受け入れ等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の商店への買物、社協からの相談のボランティア等を利用している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者に送迎、同行を行い、診察の付き添いを行う事で医療を受ける支援をしている。 対応の可能な家族には掛かり付け医への受診を行って頂き、情報の共有に努めている。	月2回協力医療機関からの訪問診療を受診できる体制となっているほか、利用者や家族等の希望にそってかかりつけ医への通院を支援している。 受診結果は電話や毎月の便りなどで家族等に報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の契約看護師が来所し、入居者の状態チェック、介護職員からの報告、相談を受けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーの作成等、情報提供等を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針を作成している。事業所のマニュアルに終末期の対応の手順が記載されている。	「看取り指針」や「終末期ケア手順」を作成し、利用者や家族等に同意を得ているが、事業所でできることとできないことを具体的に明示したり、利用者や家族等の意志確認書を作成するまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた具体的な支援方針を全職員で協議し、利用者や家族等とできるだけ早期から話し合う機会を設けて方針を共有することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	資料を使った研修を行う、事業所のマニュアルや掲示された対処法を読む、等を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常食の準備、近所の職員とその家族が駆け付けられる為の連絡網、断水時は地区内の井戸水を使わせて頂ける様に運営推進会議で協力を取り付けている。 避難訓練参加者の反省会を行ったり夜間の火災時の対応方法を作成、掲示している。	夜間想定を含めた避難訓練を同一法人が運営する同じ建物内の施設と共同で年2回実施しているが、訓練に消防署の立会いを得るまでには至っていない。 訓練の実施状況や反省点などを話し合い、記録して次回の訓練に活かしている。 災害時のマニュアルを作成しているほか、1週間分の水や食糧、カセットコンロ、懐中電灯、発電機を備えている。 避難訓練の様子を運営推進会議の委員でもある区長が見学しているが、地域の人々の参加を得るまでには至っていない。	避難訓練に消防署や地域住民の参加を得て事業所の災害対策に理解を得るとともに、消防団へ参加を呼びかけて協力体制を整えていくことを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所の接遇のマニュアルを職員全員が読んで適切な対応を身に付ける。	管理者や職員は利用者に対して「命令口調にならない」や「言葉で制止をしない」、「失敗しても怒らない」などを意識して支援にあたり、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務所の鍵のかかるロッカーに保管して情報漏洩に留意しているほか、個人情報の使用に際しては利用目的を明示して利用者や家族等の承認を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けを多く行い、入居者が思いや希望を表現出来る様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で休みたい、レクを休みたい等の希望を受け入れて集団行動を強いない様にしている			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は職員が決めずに本人が選ぶ様にしている。 居室にハンガーを置いて衣類を取り出しやすくしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者への御茶配り、テーブル拭き、食器の片付け等、可能な限り協力し合っている。	献立は協力医療機関の栄養士によってカロリー計算されたもので、利用者の嚥下能力に合わせて調理したり、持病の関係で口にできない食べ物については代替品で対応している。 節句や誕生日などの行事食、寿司などの出前、おにぎり持参での花見など、食事に変化を付けて楽しみなものとなるよう工夫をしている。 利用者はそれぞれの能力を活かしながら、食事の準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態によって副食を刻んだり、御飯を粥に変更する等して食べやすくしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	協力歯科医の指導を受けて口腔のケアを行っている。 上手く出来ない入居者は必要に応じて職員が介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者の状態に合わせた排泄介助を介護計画に沿って行っている。	職員は利用者の生活リズムや排泄パターンを把握したうえでトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援をしている。 夜間の場合もトイレ誘導やポータブルトイレを利用するなど、なるべくおむつを使用しない支援に努めている。 失敗した場合は誰にも気付かれないようトイレや風呂場に誘導し、自尊心を傷つけないよう配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜類をメニューに取り入れる、散歩をして体を動かす等の予防を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	排泄で体が汚れた時の入浴等、何時もと違う日の入浴も行う。	基本的には週3回の入浴としているが、利用者の希望や体調によりいつでもシャワー浴ができるよう支援している。脱衣場にエアコンを設置して温度差に配慮しているほか、1階にある通所介護事業所の機械浴を利用できる体制となっている。 入浴を拒む利用者には無理強いせず、時間帯を変えたり呼びかける職員を替えるなどの工夫をしている。 柚子湯や入浴剤などで利用者が入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	衣類や寝具、室温調整等を行って眠りやすい環境を行っている。表情等を観察して疲れた様な時は居室に誘導して休ませている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬剤情報を挿んで職員が閲覧している。服薬のマニュアルを読んで適切な服薬の方法を身に付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、塗り絵、編み物等、個人で趣味や気分転換を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人の 希望を把握し、家族や地域の人々 と協力しながら出かけられるよう に支援している	近所の散歩やドライブ等を行って いる。 家族の協力や職員の同行で買い物等 を行う。	天気の良い日は車いす使用の利用者も 一緒に事業所周辺を散歩して五感を刺激 したり、四季の移り変わりを楽しん でいる。 利用者の希望にそって日用品の買 物に職員が同行したり、花見や初詣 など普段行けない場所へも事業所 の車を利用して外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している	入居者の状態によって、お金を所持 して買い物等を行える様にしてい る。 認知症の状態によって管理が困難な 入居者は職員が管理し台帳に記録 している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電 話をしたり、手紙のやり取りが できるように支援をしている	電話を自分で操作するのが難しい入 居者には職員が電話をかけるのを 手伝っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居 間、台所、食堂、浴室、トイレ 等）が、利用者にとって不快や混 乱をまねくような刺激（音、光、 色、広さ、温度など）がないよう に配慮し、生活感や季節感を採 り入れて、居心地よく過ごせる ような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、入居者の 制作物を展示する等している。 清掃を毎日行い、ゴミや臭い等が 出ない様にしている。	居間には季節の花が活けられていた り、利用者が制作した折り紙や刺 繍の花細工が飾られ、家庭的な 雰囲気や居心地よく過ごせる場 所となっている。 居間の一角に4畳ほどの畳スペース があり、利用者が腰かけたり横 になるなど、寛げる空間となっ ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには座敷やソファを設置する等して自由に過ごせる様になっている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具の配置は入居者、家族の希望に沿って自由に行っている。使い慣れた物も持ち込み可能と入居前の案内用紙に記載。	居室にはベッドやエアコン、タンスが設置されているほか、テレビや鏡台、冷蔵庫、本棚、携帯電話など利用者の使い慣れた馴染みの品や、仏壇やぬいぐるみなど大切な品が持ち込まれたり、家族の写真などが飾られ、寛いで過ごせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの設計になっている。居室の入り口や、トイレ、職員事務所に表札を付けて迷わない様にしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある <input type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまにある <input type="radio"/> 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2, 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3, 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに <input type="radio"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="radio"/> 1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3, あまり増えていない <input type="radio"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 永国長寿館

作成日 平成24年11月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練の参加が事業所の職員のみで実施。	消防署員や地域の住民に参加してもらう	参加が出来る様に呼掛け、調整を行っていく。	12か月
2	33	週末ケアで事業所の対応可能な範囲が明示されていない。	・指針を検討する。 ・職員、家族間での意見の共有を行う	看取りについて勉強会やカンファレンスを行う。	12か月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。